

# ウィークリー・アウトルック

## パウエル FRB 議長の議会証言

### 【今週のポイント】

- ・弱い米経済指標を受けてパウエル議長は何を語るか
- ・フランス政治の不透明感はユーロの重石!?
- ・政策会合で RBNZ の利下げ観測が後退するか

米国の6月雇用統計はNFP(非農業部門雇用者数)が前月比20.6万人増と市場予想(19.0万人増)を上回り、ヘッドラインは強めでした。しかし、4-5月分が計11.1万人下方修正され、また失業率は0.1ポイント上昇して4.1%と21年11月以来の水準に達するなど、中身は弱めでした。

先週公表されたFOMC議事録(6/11-12開催分)では、労働市場軟化の兆候が指摘されました。金融政策はインフレ抑制のみならず雇用(景気)への配慮も重要との指摘もあり、労働市場の軟化は利下げを促す要因となりそうです。

9日の上院銀行委員会での議会証言で、パウエルFRB議長が何を語るか興味深いところでしょう(議長は10日下院金融サービス委員会でも同様の証言)。

英国の議会選挙では野党労働党が圧勝しました。事前に予想された結果でもあり、市場は選挙結果を冷静に受け止めているようです。ただし、スターマー首相が率いる労働党はどのような政策を打ち出すでしょうか。財政赤字の拡大につながるような政策の場合、英ポンド安や長期金利上昇などの形で市場が警鐘を鳴らすのは、22年秋のトラス・ショックで経験済みです。

### 今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
7月7日		フランス議会選挙(決選投票)			
7月9日	21:00	【メキシコ】CPI 前年比(6月)	4.90%	4.87%	4.69%
	23:00	【米】パウエルFRB議長議会証言(上院、10日に下院)			
7月10日	11:00	【NZ】RBNZ政策金利	5.50%	5.50%	5.50%
7月11日	21:30	【米】CPI 前年比(6月)	3.2%	3.1%	3.3%
		【米】コアCPI 前年比(6月)	3.4%	3.4%	3.4%
7月12日	21:30	【米】PPI 前年比(6月)	2.3%	2.3%	2.2%
		【米】コアPPI 前年比(6月)	2.4%	2.5%	2.3%
	23:00	【米】ミシガン大学消費者信頼感指数・速報値(7月)	68.5	68.2	68.2

市場予想はBloomberg、7月8日9:00現在。発表日時は日本時間。

---

フランスの議会選挙では、7日の決選投票で左派連合の新人民戦線が第1党になった模様。第1回投票で躍進したルペン氏の極右・RN(国民連合)は、与党連合に次ぐ第3党になったようです。極右の極端な政策が日の目を見ない点はユーロにとってプラスかもしれません。ただ、過半数の議席を獲得した政党(グループ)がないなかで、誰が首相に就任するのか、その首相の下でどのような政策が採られるのか、不透明です。フランス政治の不透明感は状況次第でユーロの重石になりそうです。〈西田〉

\*\*\*\*\*

先週(7/1-)、豪ドル/円は91年5月以来およそ33年ぶりの高値を記録し、豪ドル/NZドルは約2カ月ぶりの高値をつけました。足もとの豪ドル堅調の主な要因として、RBA(豪中銀)の利上げ観測が挙げられます。RBAの利上げ観測が引き続き豪ドルを下支えすると考えられます。

豪ドル/NZドルについては、10日に開かれるRBNZ(NZ中銀)の政策会合が材料になりそうです。RBNZの利下げ観測が後退する場合、豪ドル/NZドルは上値が重くなる可能性があります(詳細は後述)。

米ドル/カナダドルについては、パウエルFRB議長の議会証言や米国の6月CPI(消費者物価指数)の結果に影響を受けそうです。BOC(カナダ中銀)の利下げ観測が強まるなかで、議会証言やCPIなどを受けてFRBの利下げ観測が後退する場合、米ドル/カナダドルには上昇圧力が加わりそうです。

メキシコの6月CPIが9日に発表されます。市場ではBOM(メキシコ中銀)は次回8月8日に利下げを行うとの観測もあります。CPIが市場予想を上回る結果になれば、BOMの利下げ観測が市場で後退するとともに、メキシコペソが堅調に推移しそうです。〈八代〉

### 今週の注目通貨ペア①: <米ドル/円 予想レンジ:155.000円~163.500円>

米ドル/円は3日に161.938円と約38年ぶりの高値をつけた後に、反落しました。米国の6月雇用統計やISM非製造業景況指数など経済指標が総じて軟調で、FRBの利下げ観測が高まりました。今週は、9日と10日のパウエル議長の議会証言に要注目です。軟調な経済指標を受けて、「インフレが持続的に2%に向かっていると一層の確信を得るまでは、政策金利の引き下げが適切になるとは予想していない」とのFRBのスタンスに変化が生じるかどうか。

日銀は7月末の金融政策決定会合で国債買入れ額の減額計画を決定する方向です。同じタイミングで追加利上げに踏み切るかどうか。日銀の利上げ観測が高まれば、1.1%手前で揉み合っている長期金利(10年物国債利回り)が高値を更新して米ドル/円の下押し圧力となるかもしれません。

一方で、米ドル/円が上述の直近高値を超えて上昇に拍車がかかるようなら、本邦当局による為替介入の観測が高まるでしょう。7月末の退任が決まった神田財務官がどのような判断をするかも興味深いところです。〈西田〉

---

### 今週の注目通貨ペア②: <ユーロ/英ポンド 予想レンジ: 0.84000 ポンド~0.85000 ポンド>

ユーロ/英ポンドは6月14日に一時0.84000ポンドを割り込み、その後は反発。7月7日のフランス議会選挙の決選投票でルペン氏の極右・RN(国民連合)が予想外の第3党に沈み、反EU・反ユーロの政策が模索されるリスクは低減しました。ただ、第1党に躍り出た左派の新人民戦線がどのような政策を打ち出すのか。市場で財政赤字拡大の懸念が強まらないか、注意する必要はありそうです。まずはマクロン大統領が誰を首相に指名するのか、注目でしょう。

一方、英国の議会選挙では野党労働党が圧勝しました。スターマー首相は中道寄りの政策を志向しているようです。労働党政権は14年ぶりとはいえ、国民の支持や市場の信認が厚かった97-07年のブレア政権などの経験もあり、ある程度安定した政権運営が期待できそうです。<西田>

### 今週の注目通貨ペア③: <豪ドル/NZドル 予想レンジ: 1.09000NZドル~1.11000NZドル>

豪ドル/NZドルは5日に一時1.10053NZドルへと上昇し、5月7日以来およそ2カ月ぶりの高値をつけました。足もとの豪ドル/NZドル上昇の主因として、豪州の5月CPI(消費者物価指数。6/26発表)の強い結果を受けてRBA(豪中銀)の利上げ観測が強まったことが挙げられます。5月CPIは前年比4.0%と、市場予想の3.8%を上回り、23年11月以来6カ月以来の強い伸びでした。

市場の金融政策見通しを反映するOIS(翌日物金利スワップ)によると、市場が織り込むRBAが利上げする確率は、次回8月5-6日の政策会合で25%程度、9月23-24日の会合までで35%程度、11月4-5日の会合までで40%程度です(日本時間8日午前10時時点)。RBAの利上げ観測が引き続き豪ドル/NZドルを下支えしそうです。

今週は、10日にRBNZ(NZ中銀)の政策会合が開かれます。政策金利は5.50%に据え置かれるとみられ、その通りの結果になればRBNZの声明や会合の議事要旨が材料になりそうです。前回会合時の議事要旨では、「(会合では)利上げの可能性について議論した」、「金融政策(=現在の政策金利の水準)が需要を抑制していると確信している」、「政策金利を長期間、(景気)抑制的な水準に維持する必要がある」などとされました。

市場では、RBNZは早ければ10月に利下げを行うとの観測があります。RBNZの声明や議事要旨が市場の利下げ観測を後退させる内容になれば、豪ドル/NZドルは上値が重くなる可能性があります。

<八代>

### 今週の注目通貨ペア④: <米ドル/カナダドル 予想レンジ: 1.35000カナダドル~1.37500カナダドル>

5日に発表されたカナダの6月雇用統計は失業率が6.4%、雇用者数が前月比0.14万人減となり、いずれも市場予想(6.3%と2.25万人増)よりも軟調な結果でした。カナダの雇用統計の結果を受けて市場ではBOC(カナダ中銀)が次回7月24日の政策会合で利下げするとの観測が強まりました。そのことはカナダドルにとってマイナスです。

---

今週は、パウエルFRB議長の議会証言(9日と10日)や米国の6月CPI(消費者物価指数。11日)が材料になりそうです。議会証言やCPIによってFRBの利下げ観測が市場で後退する場合、米ドル高圧力も加わって、米ドル/カナダドルは2日高値の1.37505カナダドルに向かって上昇する展開が想定されます。〈八代〉

## <執筆者>

### 執筆者プロフィール



#### 西田 明弘 (にしだ あきひろ)

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きてても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

### 執筆者プロフィール



#### 八代 和也 (やしろ かずや)

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

---

## 当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

---

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

---